

入 札 公 告

令和7年2月6日

次のとおり一般競争入札に付します。

公益財団法人広島平和文化センター
理事長 香川 剛廣

1 一般競争入札に付する事項

(1) 業務名

広島国際会議場舞台設備等操作管理業務（総価契約）

(2) 履行の内容等

入札説明書及び仕様書による。

(3) 契約期間

契約締結の日から令和12年3月31日まで

（地方自治法第234条の3に準ずる長期継続契約）

(4) 履行期間

令和7年4月1日から令和12年3月31日まで

(5) 予定価格

落札決定後に公表

(6) 調査基準価格

落札決定後に公表

(7) 履行場所

広島国際会議場

広島市中区中島町1番5号

(8) 入札方式

本件業務は、開札後に入札参加資格の有無を確認する入札後資格確認型一般競争入札で入札執行する。

(9) 入札方法

ア 入札金額は、5年間（履行期間）の総価を記載すること。

イ 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の10パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

2 入札参加資格

次に掲げる入札参加資格を全て満たしていること。

(1) 地方自治法施行令第167条の4及び広島市契約規則（以下「規則」という。）第2条の規定に該当しない者であること。

(2) 広島市競争入札参加資格「令和5・6・7年」の「物品の売買、借入れ、修繕及び製造の請負並びに役務（建設コンサルティングサービスに係る役務を除く。）の提供」の契約の種類「役務の提供の施設維持管理業務を除く役務」の登録種目「30-05 催事・展示」のうち取扱業務区分「04 音響・照明機器等の操作」に登録されている者であること。

(3) 広島市内に本店又は支店若しくは営業所等を有する者であること。

(4) 入札公告の日から開札日までの間のいずれの日においても、営業停止処分又は広島市の指名停止措置若しくは競争入札参加資格の取消しを受けていないこと。

(5) 広島市税並びに消費税及び地方消費税を滞納していない者であること。

- (6) 国家検定制度の技能検定である舞台機構調整技能士（音響機構調整作業）1 級又は公益社団法人日本照明家協会の定める舞台・テレビジョン照明技術者技能認定 1 級の資格を有し、かつ、3 年以上の実務経験がある者を常時 1 名以上従事させることができる者であること。
- (7) 舞台、音響、照明、映像、同時通訳の各設備の操作管理技術及び維持管理技術を熟知し、3 年以上の実務経験がある者を 5 名以上有する者であること。
- (8) その他は、入札説明書による。

3 一般競争入札参加資格確認申請書の交付方法

公益財団法人広島平和文化センター（以下「本財団」という。）のホームページ（<https://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/>）のトップページの「入札・公募」から、該当の入札案件を選択した上、ダウンロードできる。

4 契約条項を示す方法等

(1) 契約条項を示す方法

本財団のホームページ（前記 3 に記載のとおり。以下同じ。）からダウンロードできる。

(2) 入札書、入札説明書、仕様書等の交付方法

本財団のホームページからダウンロードできる。

(3) 契約条項、入札説明書、仕様書等の問い合わせ先

〒730-0811

広島市中区中島町1番5号

公益財団法人広島平和文化センター 国際会議場

電話 082-242-7777

(4) 入札書等の提出方法

持参。なお、郵送、電送その他の方法は認めない。

(5) 入札金額内訳書の提出方法

入札参加者は、入札書に記載する金額の算定根拠となった入札金額内訳書を作成し、初度入札にあつては入札書と同時に、再度入札又は再々度入札にあつては落札候補者のみ、再度入札又は再々度入札の開札後、後記 5（3）に掲げる一般競争入札参加資格確認申請書等の提出期限までに持参により提出しなければならない。なお、入札金額内訳書の提出がない場合は、落札者となることができない。

(6) 入札回数

入札回数は、3 回限りとする。

(7) 入札・開札の日時及び場所

ア 日時 令和 7 年 2 月 17 日（月） 午後 1 時 30 分

イ 場所 広島市中区中島町 1 番 5 号

広島国際会議場 3 階 研修室（3）

(8) 開札

ア 入札参加者は、開札に立ち会うこと。（立ち会うことができる者は、1 者につき 1 名とする。）

イ 開札の結果、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって有効な入札書を提出した者があるときは、落札者の決定を保留し、当該者を落札候補者とする。

ウ 落札候補者となるべき同価の入札をした者が 2 者以上あるときは、開札後直ちに、くじ引きにより落札候補者を決定する。この場合において、くじ引きをしない者がある場合には、当該入札事務に関係のない本財団の職員がその者に代わってくじ引きを行う。

5 一般競争入札参加資格確認申請書等の提出

落札候補者となった者は、一般競争入札参加資格確認申請書及び入札参加資格の確認に必要な書類（以下「資格確認申請書等」という。）を持参により提出しなければならない。

(1) 提出先

前記 4（3）に同じ。

(2) 提出部数

提出部数は、1部とする。

なお、提出した資格確認申請書等は、返却しない。

(3) 提出期限

令和7年2月18日(火)の正午まで

ただし、当初落札候補者となった者ではない者が落札候補者となった場合は、別途提出期限を指定する。

なお、提出期限までに提出できない場合は、その者のした入札を無効とする。

(4) その他

入札参加者は、資格確認申請書等を前記(3)の提出期限までに提出できるよう準備しておくこと。

6 一般競争入札参加資格の確認

一般競争入札参加資格の有無については、特別の定めがある場合を除き、開札日時を基準として、前記5により提出された資格確認申請書等により確認する。ただし、落札候補者が、開札日時以後、落札者の決定までの間に前記2(2)の広島市競争入札参加資格の取消し若しくは指名停止措置を受け、又はその他一般競争入札参加資格を満たさなくなったときは、その者のした入札を無効とする。

7 落札者の決定

(1) 前記6により落札候補者が一般競争入札参加資格を有すると確認された場合は、当該落札候補者を落札者として決定する。

ただし、本件は、低入札価格調査の対象であるため、当該落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により本件契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認めるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあると著しく不相当であると認めるときは、その者を落札者とせず、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札を行った他の者のうち、最低の価格をもって申込みをした者で一般競争入札参加資格を有すると確認できた者を落札者とする。

(2) 調査基準価格の有無

有

(3) 委託業務低入札価格報告書等の提出

落札候補者となった者で、調査基準価格を下回る価格で入札したものは、委託業務低入札価格報告書、従事者支払賃金計画書及び従事者配置計画(以下「報告書等」という。)を作成し、入札説明書に定める提出期間、場所及び方法により、報告書等を提出しなければならない。報告書等の全部又は一部の提出がない場合は、その者のした入札を無効とする。

(4) 落札者の決定結果は、入札参加者全員に通知する。

8 その他

(1) 入札保証金

免除

(2) 入札の無効

次に掲げる入札は、無効とする。

ア 本件公告に示した入札に参加する者に必要な資格のない者がした入札

イ 資格確認申請書等に虚偽の記載をした者がした入札

ウ 入札金額を訂正した入札書を提出した入札

エ 再度入札又は再々度入札を実施する場合において、初度入札又は再度入札(無効となった入札を除く。)の最低価格以上の価格でした入札

オ その他規則第8条各号のいずれかに該当する入札

(3) 契約保証金

要。ただし、次に掲げるいずれかに該当する場合は、免除する。

ア 保険会社との間に本財団理事長を被保険者とする履行保証保険を締結して履行保証保険証券を提出したとき。

イ 次に掲げる条件を全て満たしている者が契約保証金免除申請書を提出したとき。

(ア) 契約を締結しようとする日から過去２年間に国、地方公共団体又は本財団と種類及び規模をほぼ同じくする契約を２回以上にわたって締結し、これらをすべて誠実に履行していること。

(イ) 広島市税について滞納がないこと。

(ウ) 消費税及び地方消費税について未納税額がないこと。

(４) 契約書の作成の要否

要

(５) 入札の中止等

本件入札に関して、天災地変があった場合、入札参加者の談合や不穏な行動の情報があった場合など、入札を公正に執行することができないと判断されるときは、入札の執行を延期又は中止することがある。また、開札後においても、発注者の入札手続きの誤り等により入札の公正性が損なわれると認められたときは入札を中止することがある。

なお、前記により入札を延期し又は中止したことに伴い、入札参加者に発生した損害については、本財団は一切の負担を負わないものとする。

(６) 本件公告に示した契約は、地方自治法第２３４条の３に準ずる長期継続契約である。次年度以降の歳入歳出予算が減額・削減された場合は、契約の変更・解除を行うことがある。また、本財団は、当該契約の変更・解除が行われた場合の損害賠償の責めを負わないものとする。

(７) その他

詳細は、入札説明書による。